

せられるものであった。ところがいざり機の改良が行なわれるにしたがって、それに応じた変化があらわれ、構造の一部に高機的改良がみられた。しかし単綜統・片口開口という制約条件からは脱しえなかった。この箱機は非常に限定された階層にのみ使用されたので、保存されている数量は調査した限りでは少ないが、いざり機の特種形式として注目したい。

C-6 日本在来機織具の調査研究（第3報） —箱機について—

愛泉女短大 角山 幸洋

1. 本報告においては、いざり機の特種形式とみられる箱機（はこばた）について、現存する遺品から検討を加え、それが機織具の発展においてどのような役割を果たしたかを問題とする。

2. 現用されていないので、保存されている箱機について形式・構造・部品の名称などを調査し、実測図を作成した。

3. 調査の結果、箱機は中国地方以西に分布しているもので、とくに広島・山口両県に使用されていたものとみられる。そして機の構造は、はじめ傾斜型いざり機のもをそのまま転用した小型の分解式いざり機とでも称